

# 令和6年 **11**月の大阪**森林**便り

## 目次

### 11月の木の話 木材のツヤ

- (1)  吉野杉 3年ぶり値上がり
- (2)  日本の伝統、木材需要刺激 絵馬・おひつ 訪日客が熱視線
- (3)  国産針葉樹合板、再び下落 問屋卸値3%安 住宅向け低迷
- (4)  輸入木材在庫高水準 9月末、8か月連続増 住宅需要鈍く
- (5)  北米産木材、再び上昇 10~12月2%高
- (6)  万博 木組みに光る和の伝統伎



### 11月の木の話 木材のツヤ

\*密度の大きい重い木材は、光の反射が増えて光沢感が増します。

\*真っ平らに見える木材面には、細かな凹凸が現れています。

\*そのため光は適度に散らばるので、金属面のようなギラギラした反射は生じません。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)

### (1) 吉野杉 3年ぶり値上がり

#### 高級柱材9月11%高 運搬コスト転嫁

\*東京都内の木材問屋が販売する吉野材の価格は、柱に使う杉正角が前月比11%高。

\*値上がりするのはおよそ3年ぶり。

\*桧正角も前月比7%高く、およそ11年ぶりに上昇。

\*林業者の減少などによる丸太の値上がりや、急激な運賃上昇などのコスト負担の転嫁分が流通価格を押し上げました。

\*東京都内の木材問屋が吉野町から仕入れるための配送費は、春以降4割程度上昇。

(2024年10月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (2) 日本の伝統、木材需要刺激

### 絵馬・おひつ 訪日客が熱視線

\*インバウンド（訪日外国人）消費の恩恵が、絵馬やおひつなどの木製品に広がっています。

\*日本の伝統と木の文化を感じさせる小物への注目が、木材需要も刺激し始めました。

\*絵馬やお札に使われるのは北米産の木材。

\*東京都新木場の木材問屋の販価はコロナ前の3倍以上。

(2024年10月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (3) 国産針葉樹合板、再び下落

### 問屋卸値3%安 住宅向け低迷

\*国産針葉樹合板の流通価格が7か月ぶりに下落。

\*東京地区のメーカー出荷価格は、厚さ12mm品の価格が9月比で3%下落。

\*背景にあるのは長引く需要の低迷。

\*8月の木造住宅新築着工戸数は、前年同月比3.5%減。

\*低迷の要因は、資材や人件費の上昇に伴う住宅自体の値上がりとされま

す。

\*8月の針葉樹合板の在庫量は前月比3.6%増。

\*出荷量は同9.2%減。

(2024年10月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (4) 輸入木材在庫高水準

### 9月末、8か月連続増 住宅需要鈍く

\*輸入木材の東京地区の在庫が1年9か月ぶりの高水準。

\*9月末は前月比6%多く、8か月連続で増えました。

\*前年同月末より42%増。

\*9月の在庫量は前月比で6%増。

\*新築住宅着工のうち、木造住宅は2024年以降、おおむね毎月3万戸台と低い水準。

\*国産材は需要低下で値下がり。

\*2023年以降、価格は逆転し、輸入品が高くなっています。

(2024年10月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (5) 北米産木材、再び上昇 10~12月2%高

### 供給絞りコスト転嫁

\*ツーバイフォー材などの北米産木材の10~12月期の対日価格が、7~9月期に比べ2%高に。

\*上昇は2四半期ぶり。

\*現地ではインフレにより丸太の価格や生産コストが軒並み上昇。

国産合板在庫3%増 9月末 最高更新、住宅不振で

\*国産針葉樹合板の9月末の在庫量は前月比3%増。2か月連続で増加。

\*9月の出荷量は前月比8.9%増。生産量は同6.1%増。在庫が増えました。

(2024年10月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (6) 万博 木組みに光る和の伝統伎

\*2025年国際博覧会(大阪・関西万博)会場で一番目立つのは世界最大級の木造建築物「大屋根リング」。

\*リング上は歩いて1周できます。

\*高さは12~20M、1周km。

\*モチーフにした京都・清水寺の舞台は高さ13M、幅18M。

\*建設費344億円。

\*建設は大林組、竹中工務店、清水建設を中心とする3つの共同企業体(JV)が3分の1を担当。

\*清水の舞台と同様の伝統的な「貫工法」を採用。

\*3JVは柱や梁のサイズを統一。

\*会議を頻繁に開き、進捗状況や課題を話し合いました。

\*大きな課題として残るのが万博閉幕後のリングの活用策。

(2024年10月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

